

2 竹林写真館

ありのままに。なんとかなる。



『フォトグラファー』

職業はなんですか？

「職業は何ですか？」と聞かれた時に「フォトグラファー」と名乗っています。フォトグラファーとは、写真を撮る仕事。それは例えば弓削高校へ行きアルバムに使用する写真を撮影、編集を行う事もあります。

あらゆる雑誌やインターネットのHPに写真が使われていると思いますが、その写真を撮るのがフォトグラファーの仕事だと考えています。

『サラリーマンからフォトグラファー』

お仕事を始めたきっかけは何ですか？

私は元々弓削出身で、高校を卒業後東京の大学へ行き、写真の事を学びました。20歳位の時にはアルバイトとして雑誌の写真を撮影する仕事を始めており、その後サラリーマン、フリーカメラマンを東京や

福岡で経験しました。学生のころは全く考えていませんでしたが、社会人としてキャリアを重ねる中で漠然と「自分の地元で生活がしたい」と思うようになり、自身の経験を活かせること、そして父が地元で同じような仕事をしていたことから写真館を弓削で起業

しました。元々「自分の地元でフォトグラファーとして仕事がしたい」という考えが強かった訳ではなく、地元で生活していくには仕事を創る必要があるという考えがあり起業した、というのが本音のところではあります。



『自営業の厳しさ』

今までにお仕事で苦労したことは何ですか？

田舎で仕事をするのは大変だと考えています。とくに創業時にはお客さんを得るために営業活動など、本業以外の仕事が大変でした。またサラリーマン、フリーカメラマン時代と大

き違うのは、個人事業で行っているため仕事内容を自分で全てやらなければならないということです。例えばお金の計算や個人のお客様への接客方法などには慣れるまでかなり時間がかかりました。自ら起業する事の厳しさを知

たし、現在も苦労することはあります。



『弓削でしかできな〜ん』
弓削で仕事をしていてよかったと思う事はありますか？
都会では人々が慌ただしく動き回り、焦りやストレスを強く感じていますが、弓削に戻って来るとゆっくり流れているように感じられます。そのためか、仕事に関しても「なんとかなるだろう」と思えることが多く、苦

労はあっても焦りやストレスが少なく感じられます。このように思えることが弓削の良いところだと思っています。**上島町に対する思いを教えてください。**
もっと発展して欲しい、人を増やしたい、などを直接望んでいるわけではないし、少子高齢化や人口減少などについての危機感などはあまり感じ

ていません。住む場所を選ぶのは個人の自由だと思うので、住む場所に楽しみや意味を見つけれれば、その人はそこに住んでしまう。自分が楽しいと思えるお祭りやイベント等に協力をして、それを喜ばせたいと思える人が増えていけば、それもある意味地域おこしに繋がるとは思っています。

使用するカメラにこだわりはありますか？
撮影には「スピード」を重視しています。昔はフィルムカメラを使っていたので、撮影できる枚数が36枚と限られていたので、常に3台のカメラを持ち歩き、シャッターチャンスを見逃さないようにしていました。デジタルカメラになってからは、電源を入れてからシャッターを切れる状態になるまでのスピードが速いものを使用しています。



仕事のこだわり